

荒れている農地の有効利用に向けた取組事例 ()

新規就農者が、柑橘の栽培で蘇らせ、

農業経営の確立を目指す!

おおさきかみじま なかのさぎの
(広島県 大崎上島町 中野鷲野地区 新規就農者による取組)

調査

調査

地域の現状

近年、耕作者の高齢化及びイノシシ・サル等の有害鳥獣による被害により広島県大崎上島町中野鷲野集落では、営農の継続が困難になったことから、荒れている農地が増加し、農地の再生が地域の課題となっていた。

地域の農地を有効利用する要因

地域の農業生産を拡大するためには、地形条件等から果樹の栽培により、荒廃した樹園地を有効利用することが不可欠であり、農地の流動化（担い手等への面的集積）と併せて、地域を挙げて取組む必要性があった。



荒れている農地の現状

準備

準備 (町及び新規就農者の取組)

町の取組

耕作放棄地を再生しませんか。(インターネットでの事業の紹介)

「大崎上島町耕作放棄地対策協議会」を設立、耕作放棄地の所有者と引き受け手の調整、荒廃状況調査や権利関係の調査・調整、計画づくりを実施、耕作放棄地の解消を積極的に取組む。

新規就農者により農業生産を拡大し地域の活性化を図る。

- ・荒れている農地（荒廃樹園地）の有効利用と営農確立に向けた取組（新規就農者（利用者）の営農規模の拡大）により柑橘の生産の拡大を図る。

- ・新規就農者に対する支援（営農確立、販売確立）。

再生ほ場設置のイメージ

再生ほ場役割

- ・柑橘(レモン、みかん) 経営に対する管理手法の確立

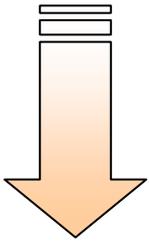
(再生ほ場)

新規就農者
再生ほ場0.24ha

J A等からの
栽培技術及び
販路の指導

周辺農家の営農指導

再生活動



耕作放棄地再生利用緊急対策を活用

(取組主体：新規就農者)

荒れている農地の有効利用に当たっては、所有者との利用権設定等土地調整が重要であり、新規就農者が地域の持つ人間関係等を活用して、平成21年12月より再生活動(新規就農者の労務提供を中心)を実施。

新規就農者と農業委員会担当者が、土地所有者と調整し再生農地を確保、再生作業を実施。

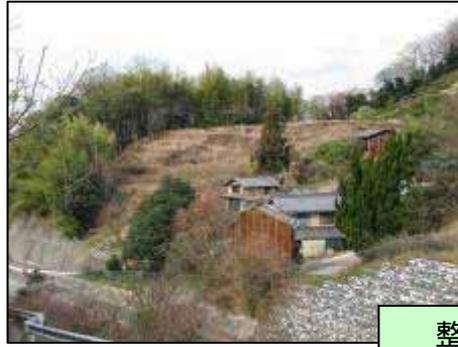
労務提供を中心に、H21年度、0.24ha(2筆)の伐採、刈り払い・耕起・整地、土壌改良、により樹園地の再生を実施。



抜開



耕起、刈り払い



整地完了

利用活動

(活動主体：新規就農者)

J A 広島ゆたか(大崎上島町含む)は、みかん、デコポンの生産量は広島県一であり、レモンの栽培面積は、日本一となっている。地域で生産された柑橘は、商品化され全国に展開されたルートで販売。

地域農業の特徴は、「耕して天に至る。」を合言葉に、急峻な山の頂上まで石積み(段々畑)を築き、さらには規模拡大の為、みかん船による出作が行われた、開拓精神の旺盛なみかんの産地。

再生農地で生産されたレモン等の柑橘は、J A 広島ゆたかに系統出荷を予定。販売ルートは確立されており、生産量の拡大により農業経営の安定を図る。

利用(営農)状況



再生樹園地でのレモンの栽培



レモン・みかんの商品化